

# 採用日程 体育会に試練

2016年卒予定の大学生の就職活動で、体育会の学生が劣勢に立たされている。就活時期の繰り下げで、3年生3月に会社説明会が解禁、4年生8月に選考本番を迎えるが、この期間は大会の本番などと重なってしまったためだ。

(泉田友紀)

## ほとほとHOTニュース

「どんな仕事がありますか」「スポーツの経験を生かせるでしょうか」

4月上旬、東京都内で体育会の学生限定の合同企業説明会が開かれた。この日は月曜日で、体育会の学生にとって練習が休みになることが多いという。

会場には、運輸、農機具製造、人材会社など23社がブー

## 合宿・試合で「時間足りない」

スを設け、約500人の学生が参加した。全員が氏名、大学籍のほか、「アメフト部」「柔道部」など所属する体育会の名前も記した名札を胸に付けてブースを回った。

私立大自転車部の男子学生(21)は、「4月から9月まで、ほぼ毎週末に試合がある。早め就活の準備を進めていたが、それでも時間が足りない」と話した。

縄跳び競技「ダブルタッチ」に励む私立大女子学生(21)も、「3月は大会と会社説明会が重なり、日程調整ができなかった。大会は9月にもあり、練習と就活の両立ができるか心配です」。

合同説明会を主催した「アスリートプランニング」(東

京は、約10年前から、体育会学生の就活支援を続けている。同社の見藤潤さんは「新しい就活の日程は、体育会の学生にとっては不利になる」と懸念する。冬場の競技を除く体育会の学生にとって、会社説明会解禁の3月は合宿が多く、選考が始まる8月は試合が立て込むという。

従来は、3年生の12月が会社説明会の解禁、4年生の4月が選考本番で、12月1月に企業研究を進めて内定を早めれば、競技活動への影響は少なかった。

この日の合同説明会に参加した旅行会社「エイチ・アイ・エス」(東京)採用チームの池田直樹チーフは、「体育会の学生は、誠実で集中力が



合同説明会には、スポーツ経験のある若手社員を同席させる企業も(東京都新宿区)

## Q 体育会 企業の評価は?

Q 体育会の学生は本来、就職に有利なイメージもあるが、実際の企業の評価は。

A 厳しい練習を乗り越えた忍耐力や、上下関係が身に付いた礼儀正しさなどが評価されるが、引く手あまたなのは、強豪校のレギュラーなど一部の学生だけだ。

Q 評価されない部分もあるのか。

A 競技に集中するあまり、学業がおろそかに

なりがちで、成績重視の傾向にある最近の採用選考に対応できない学生も多い。

Q 体育会の学生は何人ぐらいいるのか。

A 大学生全体の約8%を占める20万人程度とされている。ほとんどは一般の学生と同様の就活を行っているが、「短期決戦」と予想される16年卒向けの就活では、時間が限られる分、苦労する学生が多いと見られる。

結果とうまく結びつけることが大事です。そもそも「なぜうちなのか?」という質問は、あなたがその企業で、どう活躍できるのかも聞いているからです。

「御社は業界の中で新興国の市場占有率を伸ばしており、タフな自分なら活躍できる」などと、自分を採用するメリットを訴えられるようにしておきましょう。(人材コンサルタント)

「なぜ、うちの会社を希望するのですか?」



常規陽平の内定ロード

面接官にそう聞かれた時、あなたは説得力があることを言えますか? その業界を志望する理由は説明できたとしても、「その中でなぜうちなのか」という質問には、明確に答えられない学生が増えています。

「ここ数年、就職活動の開始時期が段階的に繰り下げられ、学生が企業研究をする時間が減り、個々の会社への理解が不足しているからだと、多くの人事担当者が感じています。」

業界全体に共通する一般的なことを語るのではなく、同じ業界内の他社との違いを徹底的に比較して、その会社ならではの特徴を把握し、「だから御社で働きたい」と話を展開する必要があります。仕事の中身、どんな

## 御社を希望する理由は……



イラスト・藍原真由

## 石油資源開発



人事部採用・人材教育グループ  
金井春樹さん

## エネルギー

原油や天然ガスの探鉱・生産、輸送、販売を行う会社です。近年は、海に重点的に取り組み、インドネシアでの開発をはじめ、カナダでは「サンド」と呼ばれる砂岩から出た原油を開発、またガス的一种「シェールガス」を生産し、これを液化して国内では、新エネルギーとして注目を浴びる「メタン

ある人材が多く魅力的。ただ、接触する機会が少なくなるのでは」と心配する。

こうした中、体育会学生が企業研究や面接などの選考で出遅れないよう、大学が後押しする動きも出てきた。

青山学院大は、体育会の学生に社会人としての基礎力を教える授業を今春開講した。早稲田大は、体育会の学生の取得単位数が少なくない試合の出場を禁止する一方、体育会のOBらが時間管理の方法や就活の心構えを教える取り組みを昨年から始めている。

専修大も、体育会の学生限定の就職ガイダンスやマナー講習などを昨年から実施する。同大の島田敏之・就職課主任は、「競技以外の世界に疎い学生も多く、スポーツで培った力を社会で生かせる人材になってほしい」と話す。